

IV. 銀行勘定調整表の作成

(1) 雛形

銀行勘定調整表は企業と銀行の当座預金の残高が一致する様式であればどのように作成しようと自由ですが、主に以下の3つが主要な表となります。

ただ、問題を解くうえで最も使うものは後T/Bの当座預金を算出できる①の表でしょう。②と③の表は参考程度に見ておいてください。

①企業側と銀行側の両者を並行して算定する方法

銀行勘定調整表							
×	年	×	月	×	日	(単位：円)	
当座預金勘定残高	55,000	銀行証明書残高		52,000			
加算：未渡小切手	2,500	加算：時間外預入		400			
売掛金回収未記帳	1,500	未取立小切手		1,600			
計	59,000	計		54,000			
減算：光熱費引落未記帳	8,200	減算：未取付小切手		4,000			
売掛金回収誤記帳	800						
残高	50,000			50,000			

前T/B 当座預金 後T/B 当座預金

「未渡小切手」などの項目名も特に決まりはなく、理解できる名称であれば何でもいいです。

②銀行側の残高証明書を基準に企業側の調整前の当座預金を算定する方法（銀行残高基準法）

銀行勘定調整表						
×	年	×	月	×	日	(単位：円)
銀行証明書残高						52,000
加算：時間外預入						400
未取立小切手						1,600
光熱費引落未記帳						8,200
売掛金回収誤記帳						800
計						63,000
減算：未渡小切手						2,500
売掛金回収誤記帳						1,500
未取付小切手						4,000
当座預金勘定残高						55,000

③企業側の調整前の当座預金残高を基準に銀行証明書残高を算定する方法（企業残高基準法）

銀行勘定調整表						
×	年	×	月	×	日	(単位：円)
当座預金勘定残高						55,000
加算：未渡小切手						2,500
売掛金回収誤記帳						1,500
未取付小切手						4,000
計						63,000
減算：時間外預入						400
未取立小切手						1,600
光熱費引落未記帳						8,200
売掛金回収誤記帳						800
銀行証明書残高						52,000

※②、③の表は参考程度に、と記しましたが、過去の問題を見たところでは銀行の証明書残高と企業の当座預金残高の両方が分かっている状態でそのまま①の表を使うため、参考レベルに考えてます。

仮に銀行の証明書残高が不明であるなら③の表を使って算定の後、①を使い、企業の当座預金残高が不明であれば、②の表を使って算定の後①を使って後T/Bの当座預金を求めるといった流れになります。

最後に総合問題で問われそうな感じの問題をあげます。

例題Ⅳ-①

次の資料を参考に、神戸商事株式会社の当座預金の期末残高および決算整理後残高試算表(一部)の空欄を埋めなさい。

【資料1】神戸商事株式会社の×6年3月31日現在の決算整理前残高試算表(一部)は次のとおりであった。(単位：円)

現金預金	203,500	支払手形	120,000
受取手形	110,000	買掛金	248,500
売掛金	389,000	貸倒引当金	9,500
保険料	4,500		

【資料2】決算整理事項

- 期末において、売掛金の回収代金として得意先より受け取った小切手1,700円が金庫内により発見され、未記帳であることが判明した。
- 神戸商事株式会社の当座預金の帳簿残高は200,200円であるが、銀行側の残高証明書の当座勘定残高は、202,000円であった。この差額の原因を調査したところ、以下の事実が判明した。
 - 仕入先大阪商店に対して2,000円の小切手を振り出して渡したが、銀行で未だ呈示されていなかった。
 - 仕入先岐阜株式会社に対する買掛金1,500円および保険料1,000円について小切手を振出して支払ったが、決算日において未渡してであった。
 - 売掛金の振込額3,600円を6,300円と記帳していた。
- 売上債権の期末残高に対し、2%の貸倒れを見積もる。
なお、貸倒引当金の設定は差額補充法による。

【解答欄】

決算整理後残高試算表(一部)		(単位：円)	
現金預金	<input type="text"/>	支払手形	120,000
受取手形	110,000	買掛金	<input type="text"/>
売掛金	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
貸倒引当金繰入額	<input type="text"/>	貸倒引当金	<input type="text"/>
保険料	<input type="text"/>		

当座預金期末残高・・・ 円

【解答・解説】

取引の順に仕訳をします。今回は「現金」と「当座預金」が「現金預金」という1つの勘定科目にまとめられているのでそれで統一します。

1. 売掛金回収代金未記帳(小切手受取⇒現金預金の増加)

(借) 現金預金 1,700 (貸) 売掛金 1,700

2. (1)未取付小切手

仕 訳 な し

未取付小切手は企業の調整は不要です。しかし、**銀行側では減算処理をします。**

2. (2)未渡小切手

(借) 現金預金 2,500 (貸) 買掛金 1,500
未払金 1,000

未渡小切手は、未渡の分だけ当座預金を増加させます。その相手勘定は買掛金以外のものは**未払金**となることに注意してください。

2. (3)誤記入

当初行った仕訳

(借) 現金預金 6,300 (貸) 売掛金 6,300

正しい仕訳

(借) 当座預金 3,600 (貸) 売掛金 3,600

修正仕訳

(借) 売掛金 2,700 (貸) 現金預金 2,700

本来3,600円回収すべきところを6,300円も回収してしまったことになっているのでその差額である**2,700円を減らします。**

そうすると、売上債権の期末残高は、
 受取手形・・・110,000円
 売掛金・・・389,000円 - 1,700円 + 2,700円
 (前T/Bより) (1.より) (2. (3)より)
 =390,000円

この2つの合計**500,000円**となります。これに対して2%の貸倒引当金を設定するので、500,000円×2%=**10,000円**が後T/Bに表示されるべき金額です。前T/Bの貸倒引当金は9,500円ですから**500円だけ繰り入れます。**

3. 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入額 500 (貸) 貸倒引当金 500

以上の仕訳を集約すると、決算整理後残高試算表(一部)は次のようになり、これが解答となります。

現金預金	205,000	支払手形	120,000
受取手形	110,000	買掛金	250,000
売掛金	390,000	未払金	1,000
貸倒引当金繰入額	500	貸倒引当金	10,000
保険料	4,500		

また、「現金預金」に含まれる当座預金の金額を算定するために、銀行勘定調整表を作成し、企業側と銀行側の両者の残高が一致するかを確認します。

×6年 3月31日		(単位：円)	
当座預金勘定残高	200,200	銀行証明書残高	202,000
加算：未渡小切手	2,500	減算：未取付小切手	2,000
計	202,700		
減算：売掛金回収誤記帳	2,700		
残高	<u>200,000</u>	残高	<u>200,000</u>

このとおり一致したので「現金預金」205,000円のうち、「当座預金」は200,000円であることがわかりました。

したがって当座預金期末残高の空欄には「**200,000**」が入ります。

ちなみに、銀行勘定調整表そのものが問題となっておらず、単に当座預金の残高を算定する場合は、雛形のようにいちいち項目名も書く必要はなく、数字を書いてそれが増加処理か減少処理か分かるようにしておく程度の下書きでいいと思います（どの数字が何を指しているのか分かっている上であることを推奨します）。

当引	200,200	銀	202.-
	+ 2,500		△2.-
	△ 2,700		
	<hr/>		<hr/>
	200.-		200.-